

災害調査 岩手県八幡平市八幡平縦山雪崩調査 (2023. 2. 27 発生)

研究代表者	雪氷：荒川逸人	実施期間	令和4年度
研究参加者	雪氷：安達 聖, 山岳ガイド：平山順子		

[目的]

2023年2月27日14時前、岩手県八幡平市の八幡平アスピーテライン御在所駐車場から南西に約1.5kmの通称縦山において雪崩が発生し、スノーボードの男性が巻き込まれ両脚を骨折した(報道より)。本調査の目的は、雪崩調査及び積雪調査を行い、雪崩発生の要因等を明らかにし、雪崩災害防止に資することである。

[実施内容]

調査日：2023年3月2日(雪崩発生の3日後) 場所：岩手県八幡平市

実施項目：雪崩確認・ヒアリング・現場付近平地での積雪断面観測

[成果]

写真1は2023年2月28日に撮影された雪崩斜面で(平山氏提供)、図1は雪崩発生地位地図および現地踏査から判断した雪崩範囲である。破断面は標高1300m付近と1240m付近で見られた。スノーボーダーによる誘発雪崩で、発生場所については現時点では不明である。雪崩は沢に集中しデブリ末端は1120m付近まで到達したとみられる。アスピーテラインの山側には雪崩減衰工があり雪崩の危険性の高い斜面であることをうかがわせた。

積雪断面観測は標高1240m地点でおこなった。積雪深は3m以上あった。表面から76-82cmこしまり雪・新雪層があり、降雪結晶の崩れたものが見られたが雲粒がなかった(写真2)。

コンプレッションテストにより上から約40cm、80cmに弱層が確認されたため、シアーフレームテストを実施した。SIはそれぞれ、4.07と2.83と小さい値となった。PP硬度計から推定したSIは小さくならなかったが、観測が発生から3日後となってしまう、断面観測結果では明確な弱層として現れなかった可能性がある。近隣のアメダスの標高が低い参考になる気象状況が不明であるが、地元で独自でおこなっている気象観測データや当事者のヒアリング等を参考にし雪崩発生の原因について調査を続ける予定である。今後は、地域の関係者と連携をして雪崩事故防止に貢献したい。



写真1 雪崩斜面全景(平山氏提供)

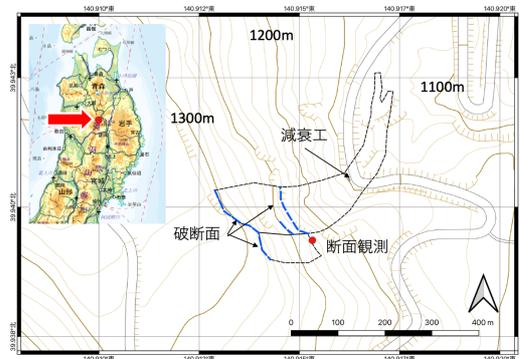


図1 雪崩位置図(国土地理院地図利用)

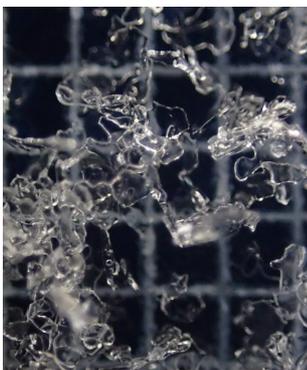


写真2 76-82cm層での結晶写真(1mm目盛り)

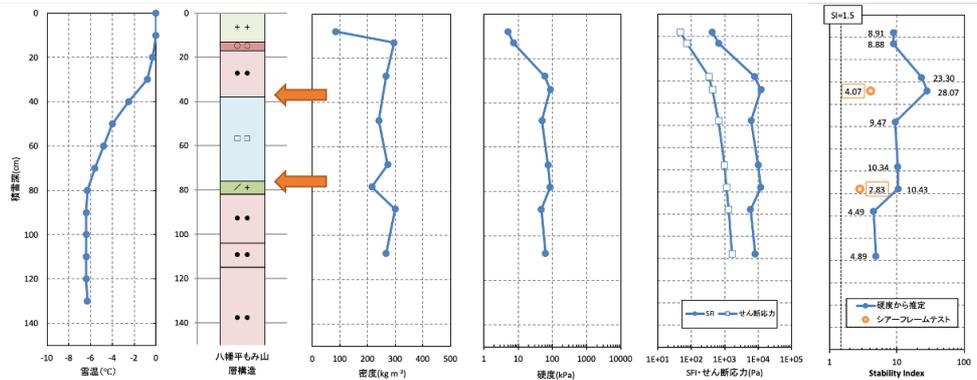


図2 積雪断面観測結果(表面から約150cm)。オレンジの矢印はCTにより弱層が確認された位置